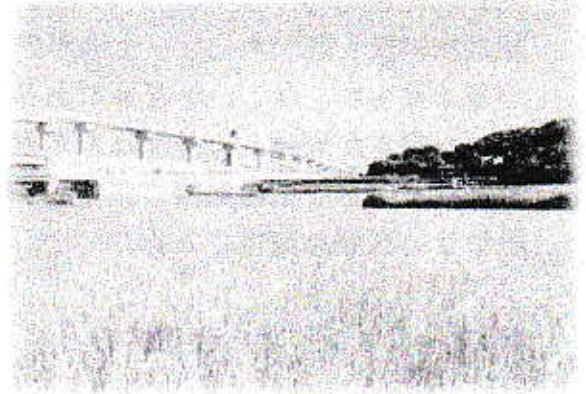


■箕面に残る田園風景 (左 止々呂美 右 粟生間谷東)



市内には、市街化調整区域に指定され、開発されずにまとまって田園地帯が残っている場所が、北部の止々呂美、新稲、稲・萱野、粟生、川合・山の口などにある。まちなかから少し外れると、大都会では得難い心なごむ風景が広がる。

《公のみどり》

■街路樹 (左 市道中央線 桜ヶ丘 右 小野原東)

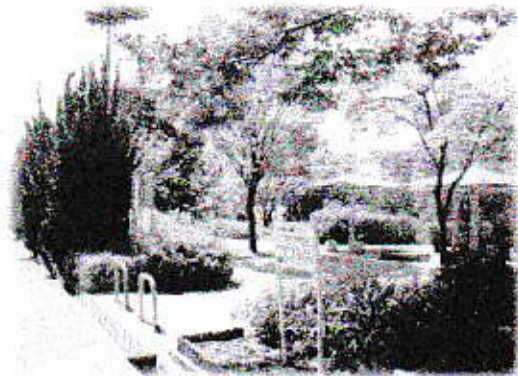
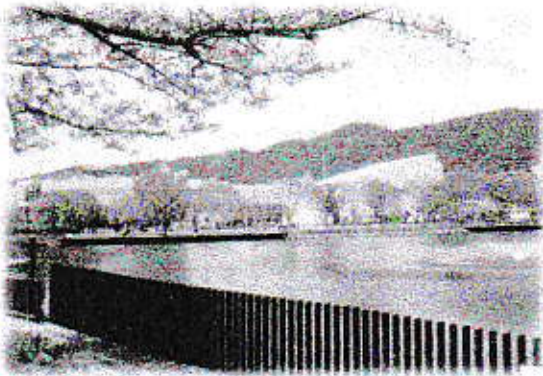


街路樹のない道路ほど潤いのない風景はない。箕面市内の国道171号を思い浮かべてほしい。府道や主な市道には、様々な樹種の街路樹がある。「市道中央線」には、春の華やかなソメイヨシノ・しだれ桜・八重桜・足元のつつじ、夏の濃いみどりのポプラ・ユリノキ、秋の黄金色のいちょうなど多様な樹木が植えられ、変化に富んだ景観を生んでいる。東部地区では、計画的に植樹されたけやき・くすのきなどの並木が美しい景観をつくりだす。ちなみに、市道の街路樹の選定対象の高木は、1687本、低木は12934本(26年度、市役所調べ)である。

■公園 まちなかのまとまったみどり

市内には、近隣公園と呼ばれる住宅地にある小さな公園から、計画的に配置されている大規模な公園を合わせて、公園が190か所ある。その他緑地と呼ばれるみどりの空間が、177か所ある。これらはまちなかでのまとまったみどり空間で、街路樹と並んで街の緑化

レベルの指標とも言える。(左 箕面 芦原公園 右 西宿2号公園)



■水辺のみどり 河川・ため池

(新稲 新築池)



川沿いやため池のまわりには樹木が茂り、水とみどりの合わさった独特の景観を醸し出す。水辺には、水鳥や虫が舞い、豊かな自然環境の象徴とも言える。ため池はもともと農業用であったが、公園と合体して、市民の憩いの場所となっているものも多い。

注) 市内の主なため池は50か所強あるが、この管理は水利組合であるから、正確には「民のみどり」に入る。

■公共建築物・学校のみどり

(萱野小のくすのき樹木群)



市役所を始めとする公共建築物には、箕面のみどりを豊かににする工夫の先駆的なモデルとなることが期待される。

学校には、それぞれに多数の樹木が植えられ、大事にされているが、卒業後にも学校時代の思い出となるシンボルツリーを育てたいものである。

まちなかのみどりをキーワードで一応分類してみたが、さらなる別の視点もあるだろう。まちなかのみどりを増やし、潤いのある街づくりを目指すには、限られた資源の中でどの分野に注力するのか、保存・維持主体なのか、新しい創出かなど論点は多い。しかし市民・企業・行政がそれぞれの立場で、みどりを増やすためのなお一層の努力が肝要であることは言を待たない。まちなみパネル展の多数の写真をご覧いただいて、箕面のまちなかのみどりを考える材料になれば幸いである。

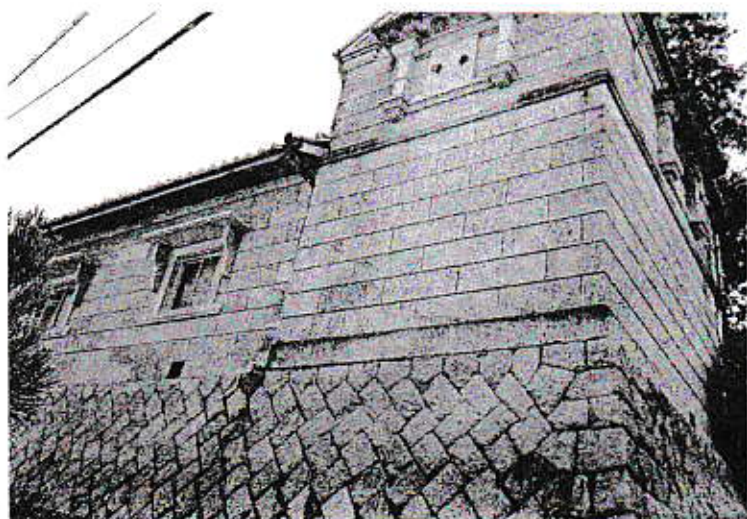
(片岡 正彦)

「タウンウォッチング」 礼賛

大塚 淳

四季折々を通じほぼ毎月催されるタウンウォッチングは好評を博しています。適度のウォーキング感覚と、思わぬ箕面の再発見に参加者は至福のひと時に浸ることができるからです。この箕面に永年居住していながら「未知との遭遇」に、ある種のノスタルジーと箕面に住んでいて良かったとの満足感を味合うことが出来る。その内容は格調の高い古民家の佇まいの探索や歴史的、社会的

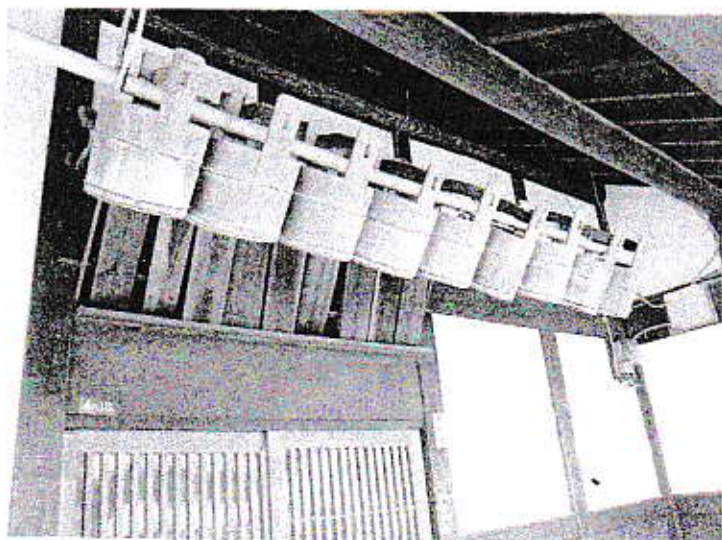
に意義のある事象の探訪であったり、また思わず微笑がこぼれる風景との出会いや裏道にひっそりと咲く花々に目を細めることも多々あり多岐に亘るものです。それらはいわゆる自分探しに繋がるのかも知れません。そして樹齢百年を越す指定樹木からパワー、エネルギーをもらい生命力の逞しさを肌で感じることもありました。一方で諸般の事情で喪失



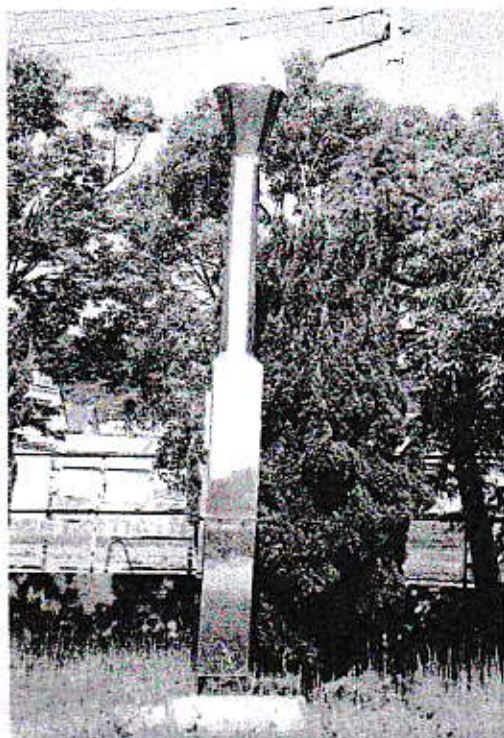
されてゆく大樹を目の当たりにすと心が痛みます。お金と、まちなかのみどりは多ければ多いほど良いとされています。未来永劫、箕面の街が豊かで、みどり溢れる活気のある街づくりを次世代へと引き継がれて行く筋道を付けることは私達の責務でもあるのです。近い将来「萱野中央駅」が誕生し、新しい街づくりに大いなる夢が膨らむと共に「さらなる未知との遭遇」に胸のときめきを覚えます。まちなかのみどりに囲まれ夢の実現が待たれます。私達

「みのお市民まちなみ会議」も微力ながら少しでもお役に立てることが出来ればと考えています。

さて、此のパネル展に、長年のタウンウォッチングに参加した体験から、独自の目線とアングルで、言わば番外編として「ユーモア編」(東部エリア)を出展してみました。箕面に唯一つの大谷石(栃木県宇都宮市産)の蔵、弁柄塗りの長屋門、猫の看板、豊川南小の生徒が描いた海の中の世界、灌安寺



の護摩の灰を持ち帰る桶を軒先に吊るした家、箕面の位置把握情報の発信基地(GPS)……何気なく見過ごす光景、これを発見するのもタウンウォッチングの楽しみの一面です。(パロディ風に面白く表現しました)



狭い箕面市を長年何度も歩き、参加者も見慣れた街を、プロデュースの大町さんは、都度新たな視点を紹介説明するので、楽しみにしている方も多いようです。

最後に説教じみて恐縮ですが、天台宗の開祖・最澄は「一隅を照らす」との名言を残されています。即ち「一人ひとりが輝き合い心豊かになれば皆んなも幸せになり素晴らしい世界が生まれる」との教えです。タウンウォッチングは決してそんな大それたものではありませんが一脈通じる処があるように、私には思えるのですが如何なものでしょうか。



タウンウォッチ開催予定 お誘い合わせてご参加ください !!

◎10月25日(土) 9時40分おれんじゆずるバス箕面墓地前 B/S 集合

今宮から稲の住宅地を散策(3.8Km)

◎11月15日(土) 9時30分阪急石橋駅東口集合

石橋から西国街道を猪名川まで辿る(3.5Km)

募集人数:各 30名(申込み順)

費用:100円(保険料他)

申込先:大町 ☎723-3298

指定樹木の原画(コピー)展示

わたしたち「みのお市民まちなみ会議」の活動の一つ、箕面市内にあるシンボリックな樹木や樹林の発掘を行っております。

昨年、市が指定した樹木を再調査し、まちなみの中の指定樹木マップを全面改訂して、多くの市民に感動をして頂きました。

その原画を会員の岡島信博さんが一つ一つ丹念に描かれました。パネル展では代表的な原画のコピーを展示して皆さんにご覧頂きます。大きくコピーしていますので、原画の持つ迫力、岡島さんの樹木に対する優しい気持ち、伝わってきます。



緑視率の経年変化など

箕面市は、みどりの多い街と云われており、景観の大きな柱になっています。しかし、北摂の山並みが、何処に居ても目に入り、なんとなく緑が豊かだと、思っているフシもあります。近年、みどりの多さを表す物差しとして、「緑視率」が話題となり、多くの自治体が測定したり、検討を行っています。これまで「みどりの多さ」は緑被率で表していました。航空写真のように上空から眺めて、みどりの面積が多いとか、少ないとか論じていたものです。

しかし、人々が感じるみどりの多さと、しっくりしません。そこで考え出されたが「緑視率」です。緑視率は人々の視線で感じる、みどりの多さを数値化する手法です。

「みのお市民まちなみ会議」では平成11年から、箕面市各所の緑視率の調査研究を行い、結果を昨年のパネル展で発表し、市長をはじめ多くの方々に、強い反響を頂きました。さらに研究を続け**今年のパネル展では、「みどりの量の変化」(緑視率の経年変化)を発表展示**しております。街の緑は木々の成長とともに増えると思いがちですが、剪定の方法、改築、建て替えなど街並みも変化するので、一様ではありません。また計測上の問題点も判ってきました。詳しくは展示パネルをご覧ください。

私達 NPO の研究は、深く調べたり、いろいろな角度から検討できる自由さを持っています。一方で民間団体の調査の限界を感じることもあります。**多くの市民のご支援を心から願っています。**

発行:NPO みのお市民まちなみ会議

<http://minohmachinami.cocolog-nifty.com>

代表者:今枝章平 ☎ 562-0046 箕面市桜ヶ丘 3-1-1 TEL&FAX 072-722-3253

郵便振込口座番号 0920-9-133953



4/22 4/22

10/10